

付属資料

— 目 次 —

- | | |
|----------------------------------|----|
| 1. 笠間市における都市交通課題 | 1 |
| 2. 笠間市の将来都市構造 | 10 |
| 3. 重点的に取り組む「まちづくり課題」の抽出 | 13 |
| 4. 道路交通ネットワーク計画 ～道路軸とその役割～ | 14 |

1. 笠間市における都市交通課題

(1) 地区間の道路ネットワークの強化

○各地区の市街地を結ぶ道路ネットワーク強化

日常生活において地区間では活発な交流が行われており、また合併を契機とした市民団体・サークル活動に関連する新たな地区間交流の促進の観点からも交通基盤について検討することが必要である。これらの交通需要に対応する地区間を結ぶ主要道路は現状において混雑をしており、活発な地区間の交流に対応した道路ネットワークの強化が課題である。

○笠間地区、岩間地区の観光資源のネットワーク化

笠間地区や岩間地区を中心に自然や文化・歴史など豊富な観光資源が分布している。これらの観光資源のネットワーク化のため観光地間を連絡する道路の整備が課題である。

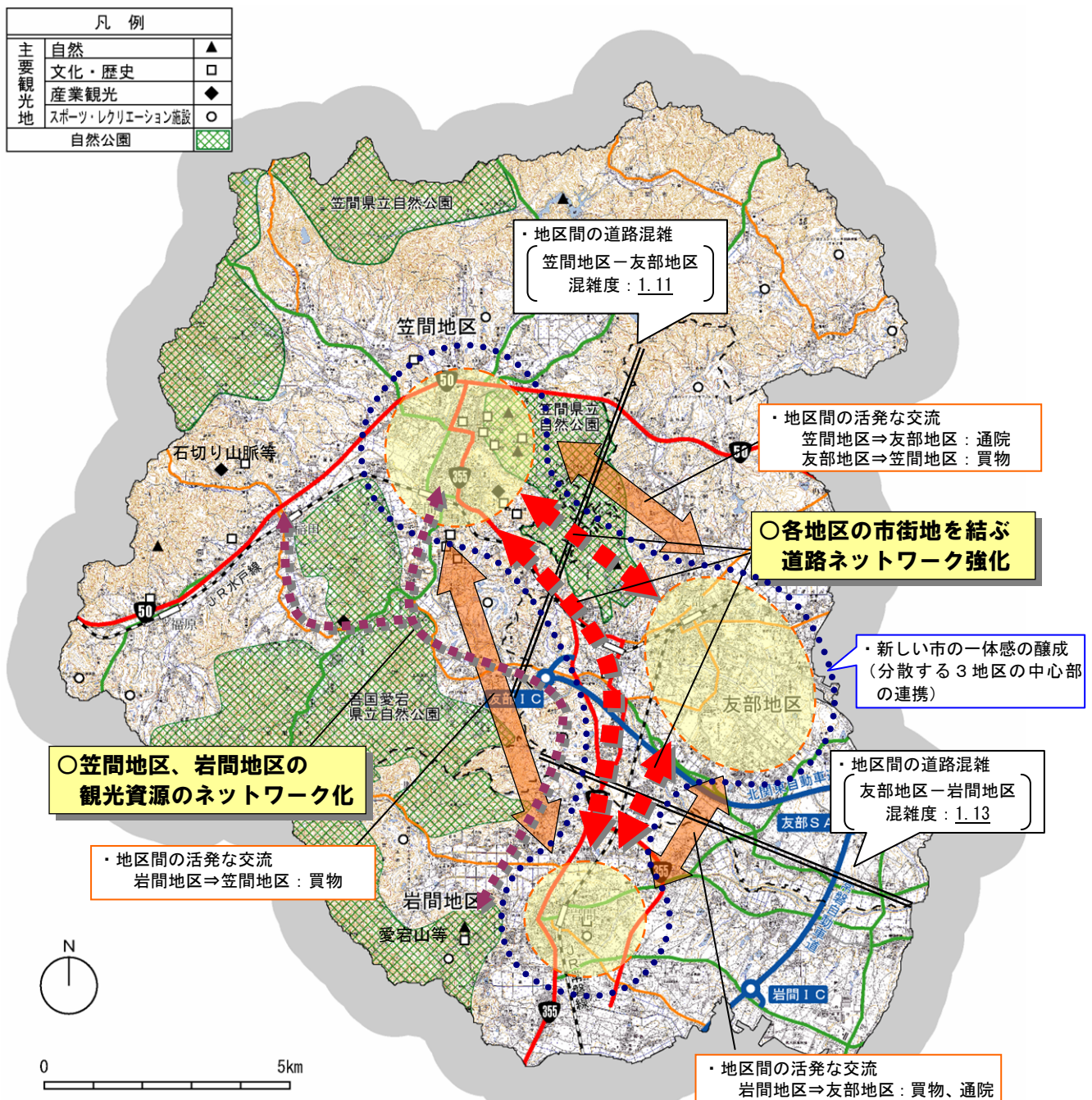


図 1 都市交通課題－地区間の道路ネットワークの強化

(2) 東西方向の道路ネットワークの強化

○水戸方面への道路ネットワークの強化

東側に位置する県都水戸市とは、通学や買物において交流が活発である。各地区と水戸を結ぶ道路は混雑をしており活発な交流に対応した道路ネットワークの強化が課題である。

○広域交通に対応した国道 50 号の機能強化

国道 50 号は茨城県、栃木県、群馬県の 3 県を結び、広域交通を分担する重要な路線であり、広域交通に対応した機能強化が課題である。

○高速道路網の活用（北関東自動車道の整備・利用促進、常磐自動車道の利用促進）

中心市街地を通過する大型車の削減及び日常生活や産業における広域的な交流の促進のため、高速道路網の活用が課題である。

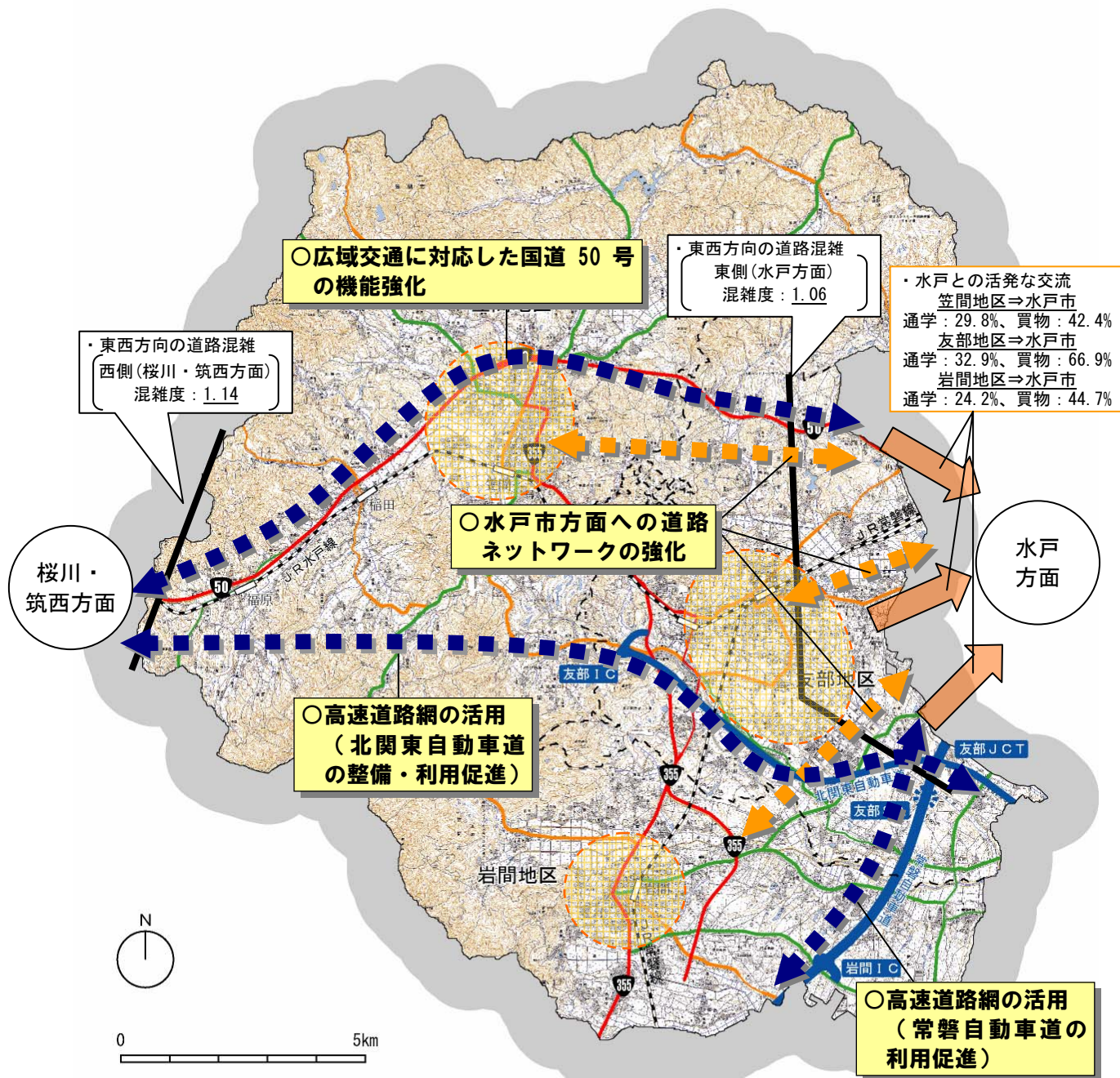


図 2 都市交通課題－東西方向の道路ネットワークの強化

- 周辺地域と笠間市を結ぶ道路の強化**
周辺地域との広域的な連携を強化するため、周辺地域と笠間市を結ぶ道路の強化が課題である。
- 山間地と市街地・主要幹線道路を結ぶ道路の強化**
主要拠点までの所要時間に地域格差があり、この格差を解消するため、山間地と市街地・主要幹線道路を結ぶ道路の強化が課題である。
- 開発予定地域やＩＣ等の拠点へのアクセス道路の強化**
開発予定地域の支援や高速道路の利便性の向上のため、開発予定地域やＩＣ等の拠点へのアクセス道路の強化が課題である。



(4) 道路空間の安全性・快適性向上

○大型車の各地区の中心市街地への流入抑制

大型車の一般道や市街地への流入は沿道環境の悪化や重大事故の発生の危険性が高く、大型車の各地区の中心市街地への流入抑制が課題である。

○国道 50 号における大型車による交通負荷軽減（環境負荷の軽減、交通事故削減）

国道 50 号は大型車交通量が多く、騒音環境基準の超過や大型車に関わる死亡事故が多発しており、これらの大型車による交通負荷軽減が課題である。

○中心市街地における歩行者・自転車の交通安全対策（友部地区市街地）

友部地区の中心市街地では歩行者・自転車の死亡事故が発生しており、歩行者・自転車の交通安全対策が課題である。

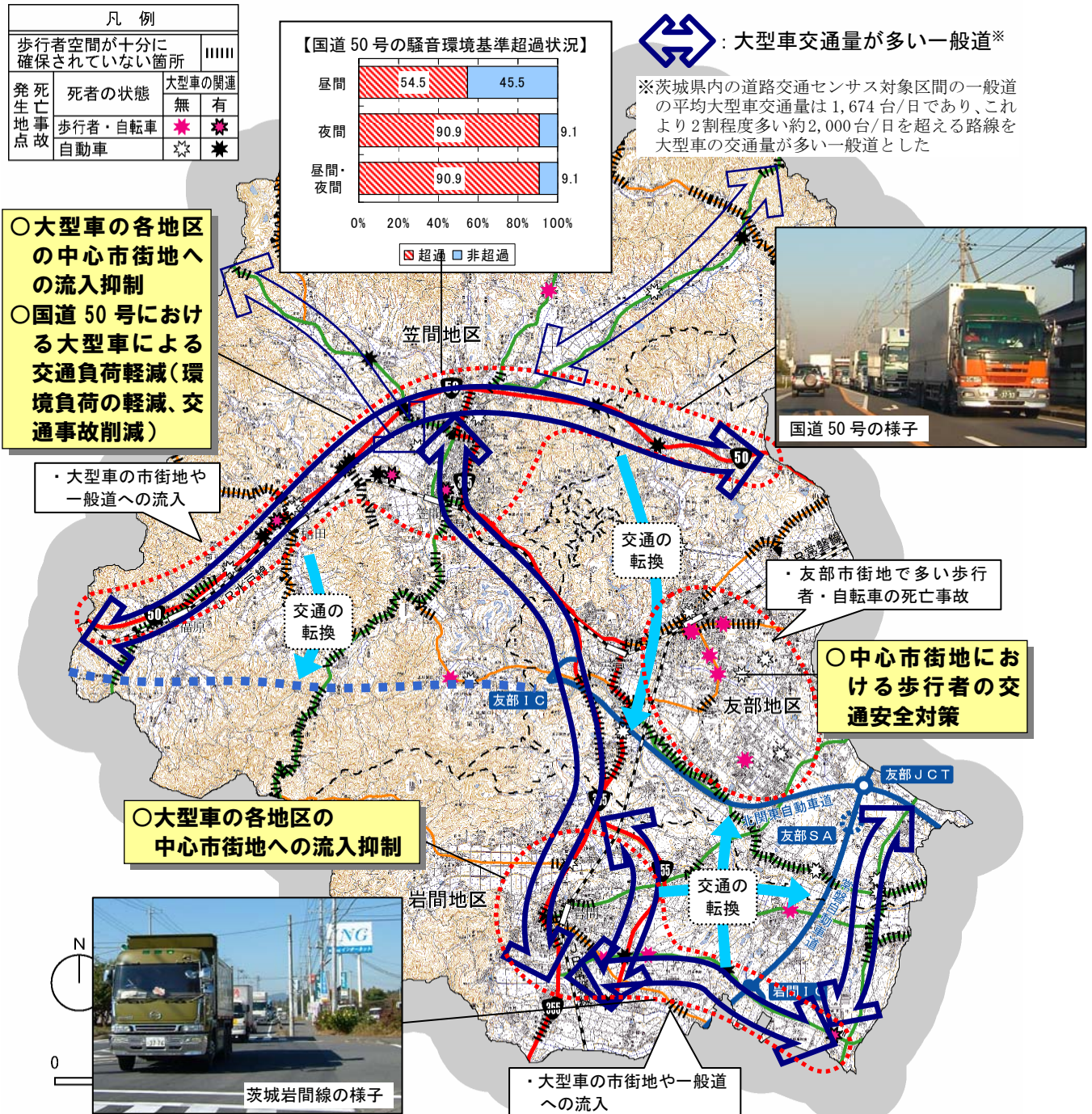


図 4 都市交通課題一道路空間の安全性・快適性向上

(5) バス交通のサービス水準の向上

○高齢者等が安心して継続的に市民活動に参加できるような移動の仕組みづくり

現在の市民団体・サークル活動に伴う移動手段は、自家用車に大きく依存している。自家用車の利用が困難な高齢者等が自らの意志で諸活動に参加し、充実した日常生活を営むことを下支えるような、バス交通を中心とした移動の仕組みづくりが課題である。

○バス運行本数の検討

市内のバス路線の大半が数時間に1本程度の運行しかなく、運行本数の検討が課題である。

○バス空白地域の解消(友部駅北部、岩間駅西部)

市内にはバスが運行されていない空白地域があり、これら地域の解消が課題である。

○地区間を結ぶバス路線の整備(笠間地区－友部地区－岩間地区間)

笠間地区と友部地区を結ぶ路線バスは数時間に1本程度の運行本数が少なく、さらに、友部地区と岩間地区を結ぶ路線バスは運行されていない。活発な地区間交流に対応するため、地区間を結ぶバス路線の整備が課題である。

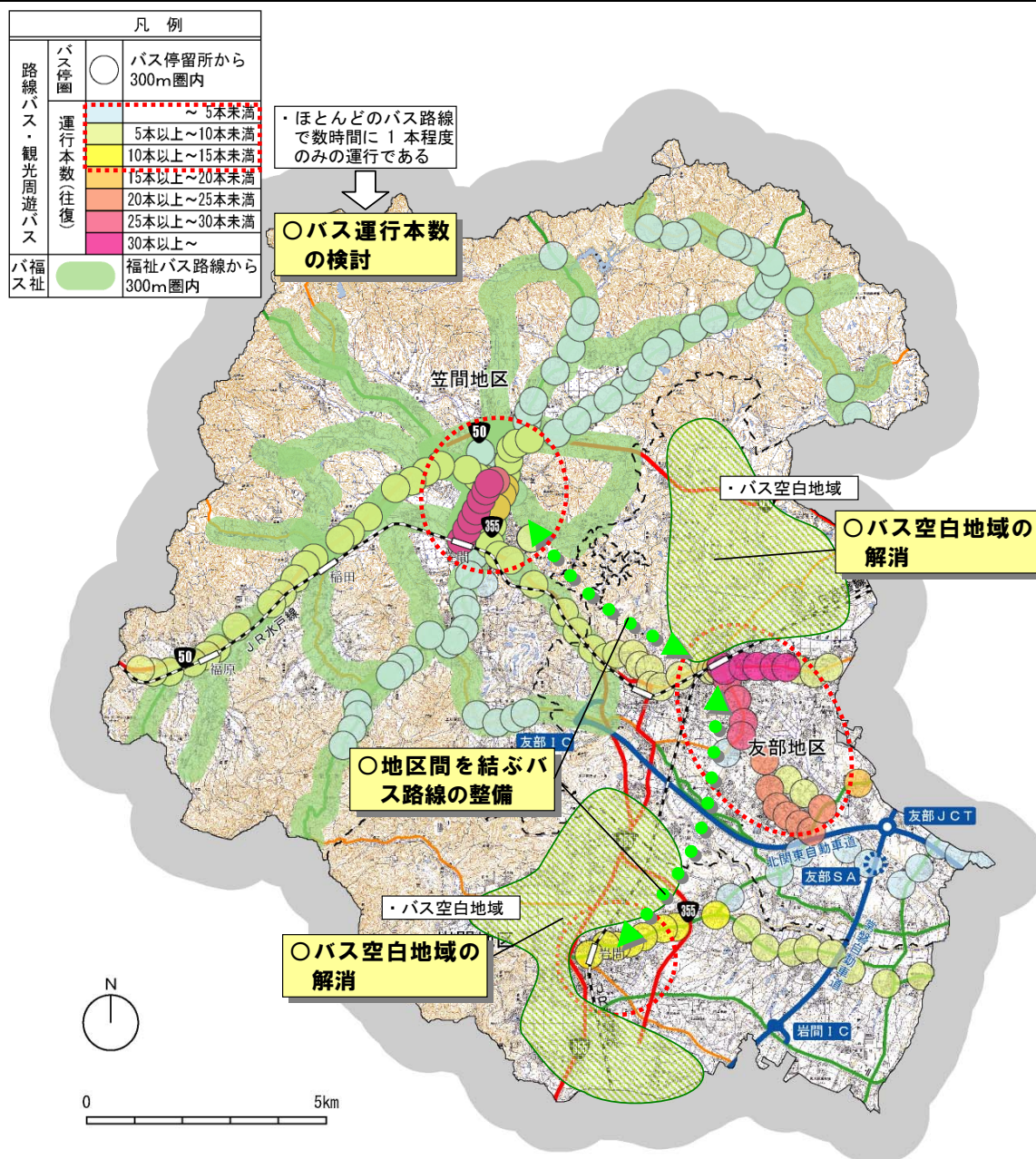


図 5 都市交通課題－バス交通のサービス水準の向上

○鉄道運行本数の検討(常磐線、水戸線)

○**鉄道運行本数の検討(常磐線、水戸線)**
鉄道の利便性の向上やそれによる公共交通の利用促進のため、運行本数の検討などにより、ニーズの強い水戸方面への鉄道交通のサービス水準の向上が課題である。

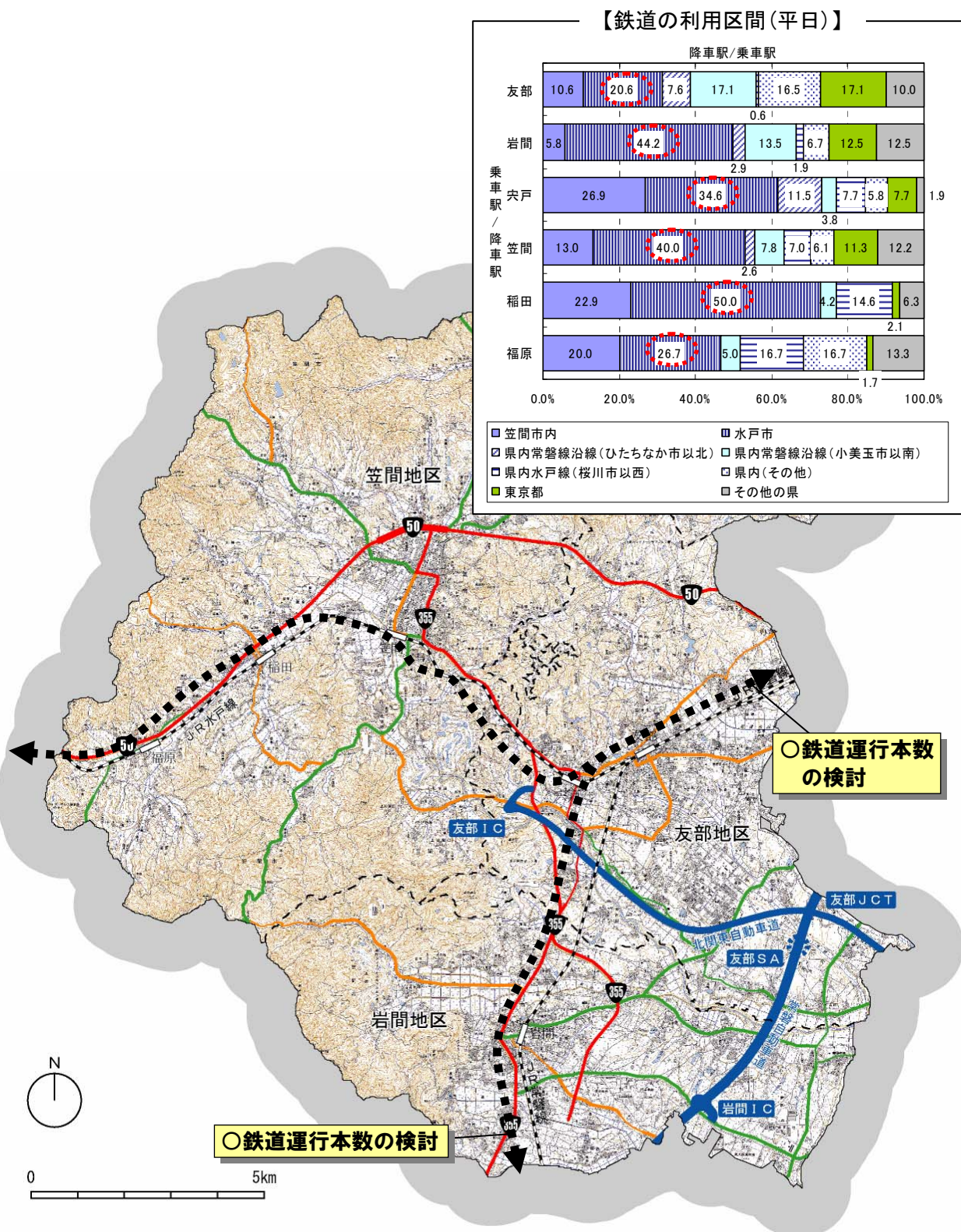


図 6 都市交通課題－鉄道交通のサービス水準の向上

(7) 交通結節機能の向上

○キス・アンド・ライドへの対応

駅端末交通手段はキス・アンド・ライド（自家用車による送迎）が多く、駅周辺では通勤・通学時に混雑が発生しており、キス・アンド・ライドへの対応が課題である。

○駅駐車場の整備(友部駅、笠間駅)

友部駅、笠間駅の駅駐車場の契約率は9割以上と高く、駐車容量の増大のため新たな駅駐車場の整備が課題である。

(8) 適切な交通機関利用への誘導

○公共交通の利用促進

市民の日常生活において自動車利用への依存が高くなっている。一方で、公共交通（鉄道）の利用者が年々減少している。交通需要の削減や環境負荷の低減のため公共交通の利用促進が課題である。

○駅駐車場の利用促進(稲田駅、福原駅)

稲田駅、福原駅の駅駐車場の契約率は3割以下と低く、公共交通の利用促進や施設の有効活用のために、駅駐車場の利用促進が課題である。

○端末手段としてバス、自転車の利用促進

駅端末手段としての自家用車の利用抑制の観点からバスや自転車の利用促進が課題である。

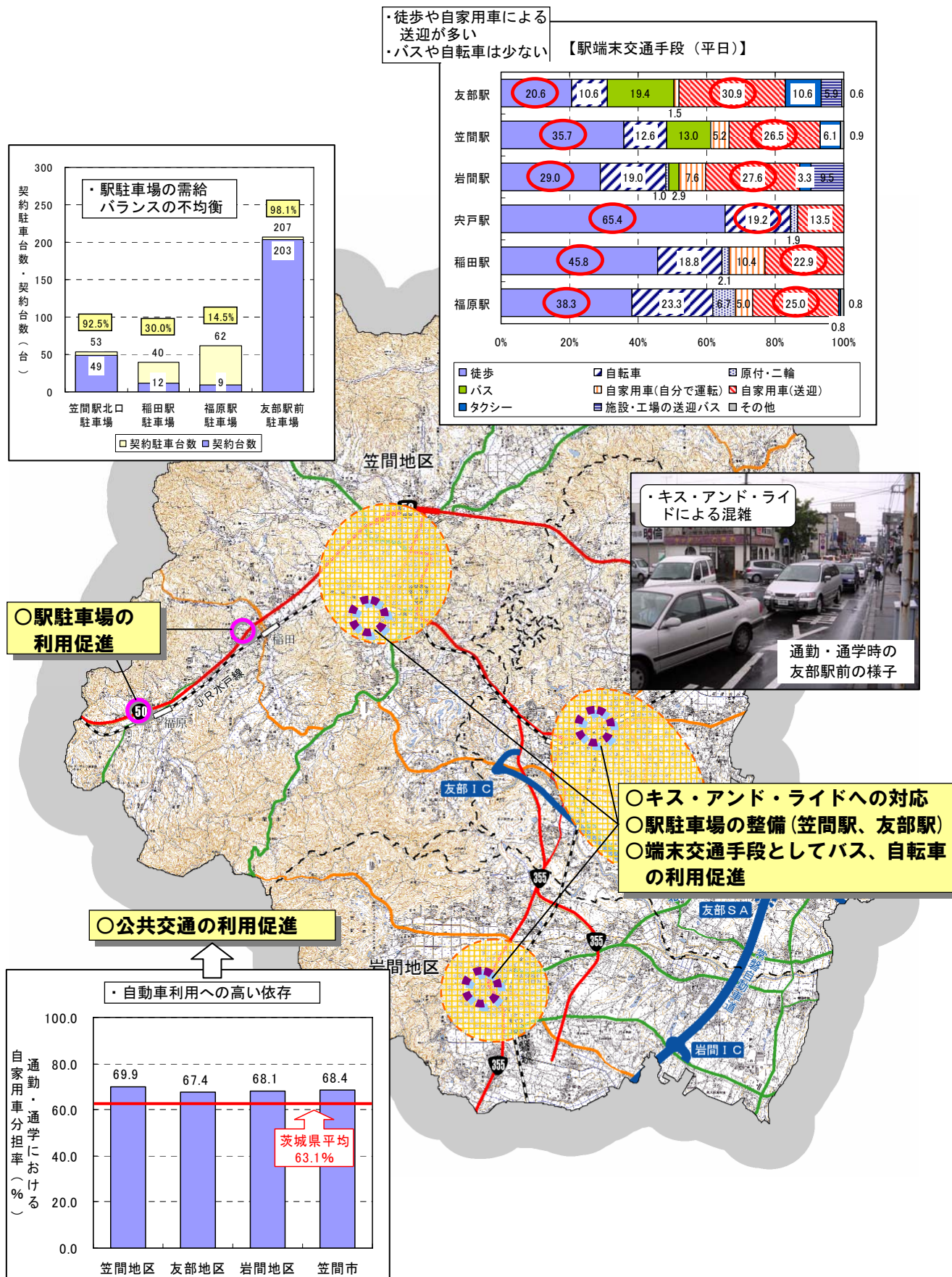


図 7 都市交通課題－交通結節機能の向上・適切な交通機関利用への誘導

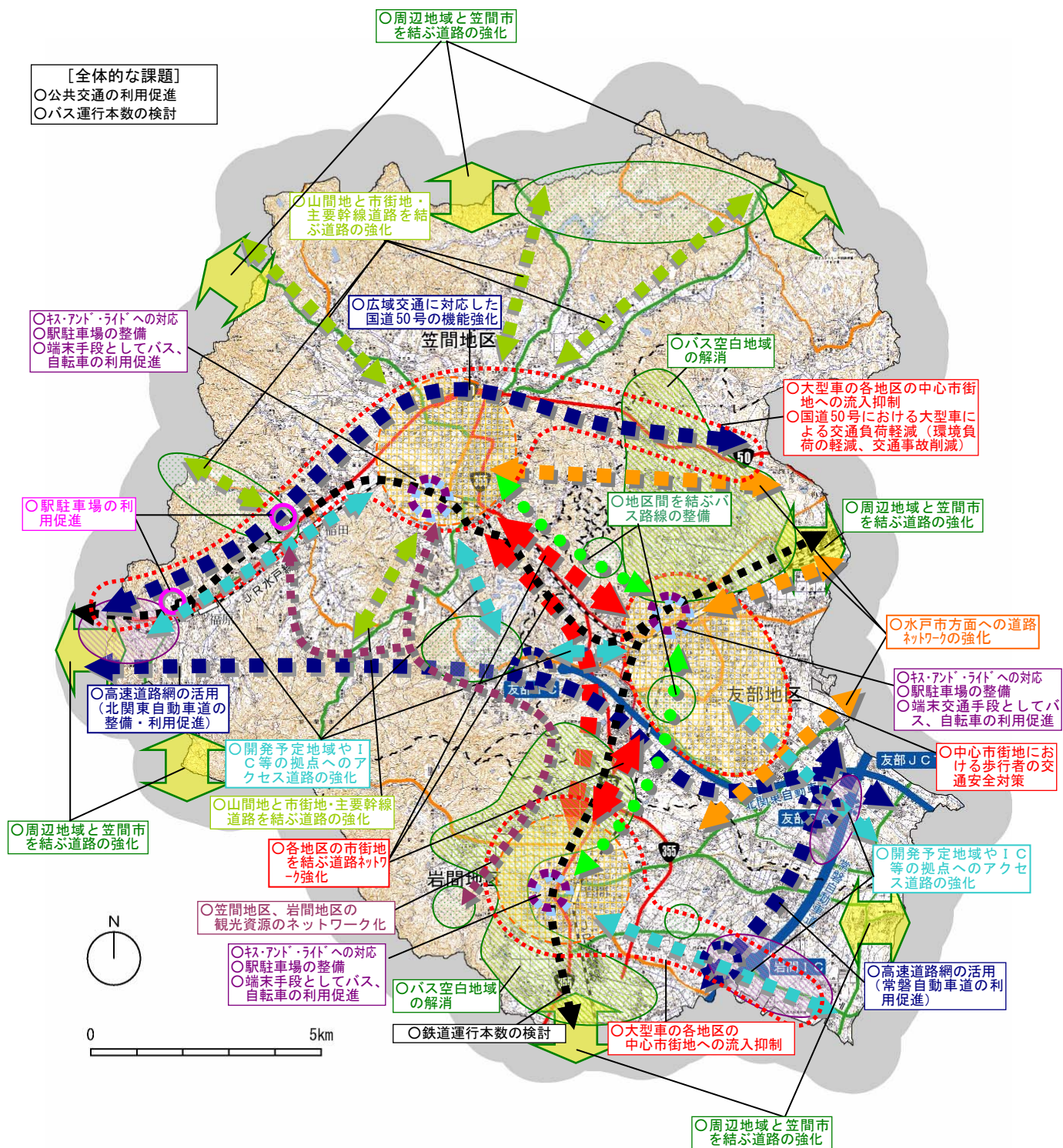


図 8 都市交通課題の総括

2. 笠間市の将来都市構造

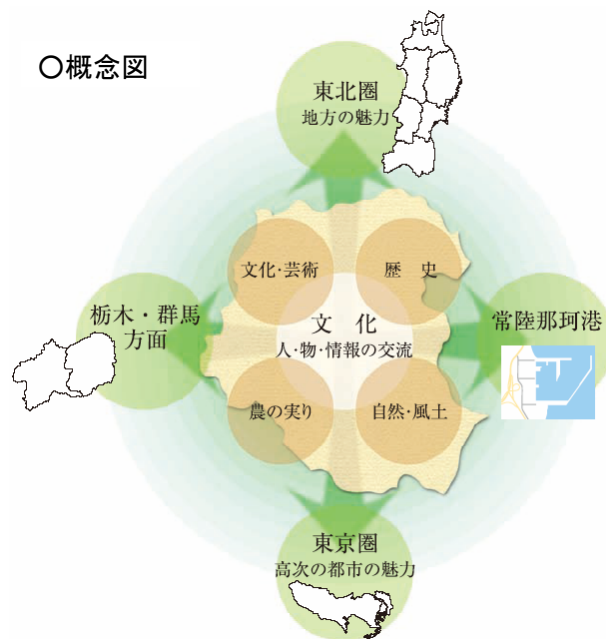
笠間市都市交通マスタープラン(案)を検討する前提となる将来都市構造を、『笠間市総合計画 基本構想及び基本計画』を基に整理する。

笠間市総合計画 基本構想で示されているまちづくりの目標

■将来像

「住みよいまち 訪れてよいまち笠間」
～みんなで創る文化交流都市～

○概念図



■将来指標（人口）

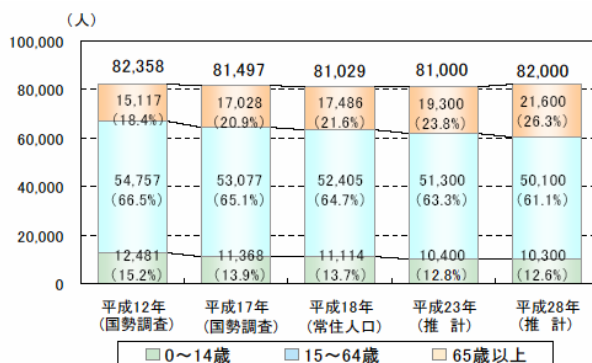
【総人口・高齢人口】

・総人口は、ほぼ横ばい傾向が想定されているが、高齢人口は増加傾向が想定されている。

【就業人口】

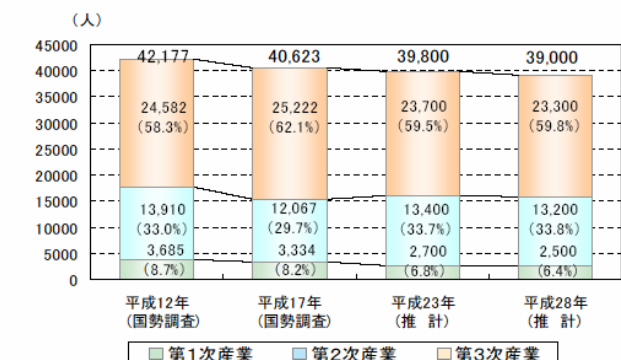
・就業人口は、減少傾向が想定されているが、第2次産業は増加傾向が想定されている。

【3階層人口推計】



【就業人口】

(常住地人口)



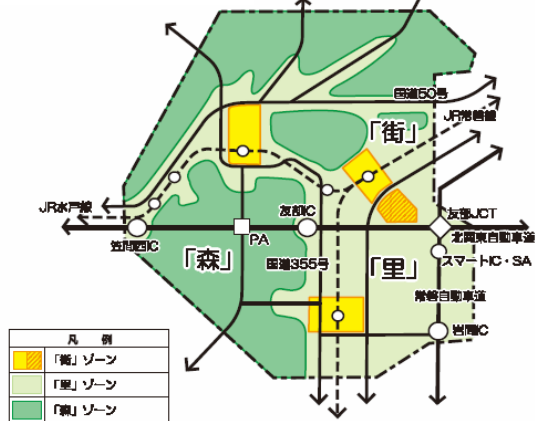
※平成12年、平成17年及び平成18年における3階層人口では、年齢不詳は含まず、総数のみに加算して表記しています。

■空間整備（土地利用）構想

整備方針1：3つのゾーンからなる基本的な都市空間構造を際立たせる

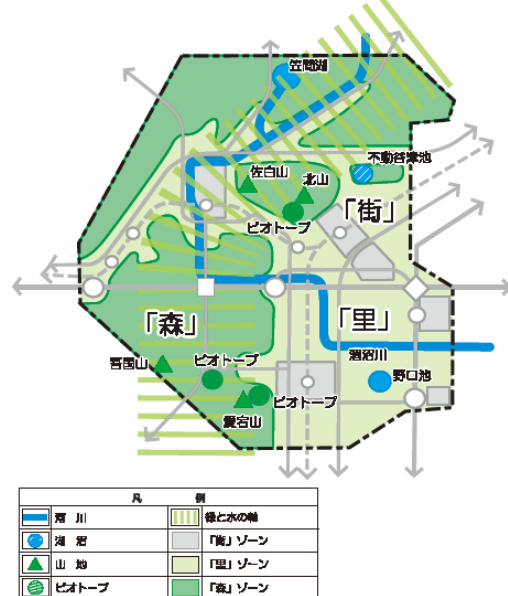
- ・「街」、「里」、「森」の3ゾーンの特性に応じた土地利用により、基本的な空間構造の形成（→a）
- ・森林や河川の保全と積極的な環境整備により、緑と水のネットワーク構造の形成（→b）

a. 基本的な空間構造



街ゾーン：地域特性に応じた魅力ある街を形成
 里ゾーン：農地や集落地の里山と一体的に保全、拠点地区周辺や幹線道路沿道などの適正な市街地の規制誘導
 森ゾーン：自然を維持しながら、観光レクリエーションや憩いの場として活用

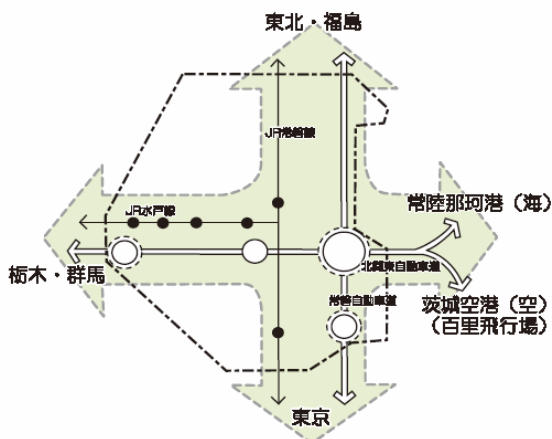
b. 緑と水のネットワーク構造



整備方針2：広域交流を適切に受け止める都市構造をつくる（→c）

- ・広域的な交流拠点の整備を進め、「陸」・「海」・「空」からの広域的な交流を適切に受け止める都市構造の形成

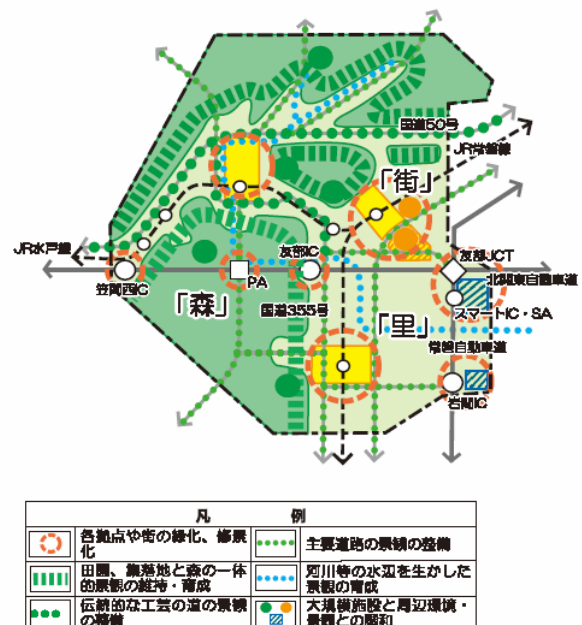
c. 広域的な交流を適切に受け止める都市構造



整備方針4：笠間らしい美しい景観を保全する（→d）

- ・3地区の特性に応じた街並み整備、里における美しい田園景観の維持・育成
- ・地域特性に応じた主要道路の沿道景観整備
- ・拠点地区・大規模施設などを中心とした笠間らしい景観整備

d. 骨格的な景観構造の形成



整備方針3：生活圏に応じた地区構造と都市の一体性を高める構造をつくる

- ・ICアクセス道路の整備や駅周辺の整備による街の構造づくりと市内各地や主要拠点を連絡し、都市の一体性を高める構造の形成
- ・人にやさしい交通環境と市街地を中心としたネットワークの形成

上記のまちづくりの目標および基本計画の施策内容から将来都市構造に考慮すべきものを加え、笠間市の将来都市構造（構成要素と将来都市空間構造）を以下に示す。

■将来都市構造の構成要素

構成要素			位置及び区域、内容
土地 利用	市街地 (街ゾーン)	中心部	友部駅、笠間駅、岩間駅周辺に位置する市街地
		郊外部	市街化が進行する友部地区東部 畜産試験場跡地
		工業用地	茨城中央工業団地(流通センター) 岩間地区工業専用地域
	農地・集落地 (里ゾーン)		農業振興地域の農地や集落地
	緑地地域 (森ゾーン)		自然公園をはじめとする山々の緑地地域
主要 拠点	交通	鉄道駅	友部駅、笠間駅、岩間駅、穴戸駅、 稲田駅、福原駅
		高速 IC、JCT、 SA、PA	友部 IC、岩間 IC、笠間西 IC、友部 JCT、友部 SA (スマート IC)、笠間 PA
	観光		芸術の森公園、佐白山、北山公園、 愛宕山、笠間クラインガルテン
主要 交通網	鉄道		JR 常磐線、JR 水戸線
	道路		常磐自動車道、北関東自動車道、国 道 50 号、国道 355 号等

■土地利用

市街地 (街ゾーン)	中心部	
	郊外部	
	工業用地	
農地・集落地 (里ゾーン)		
緑地地域 (森ゾーン)		

凡 例

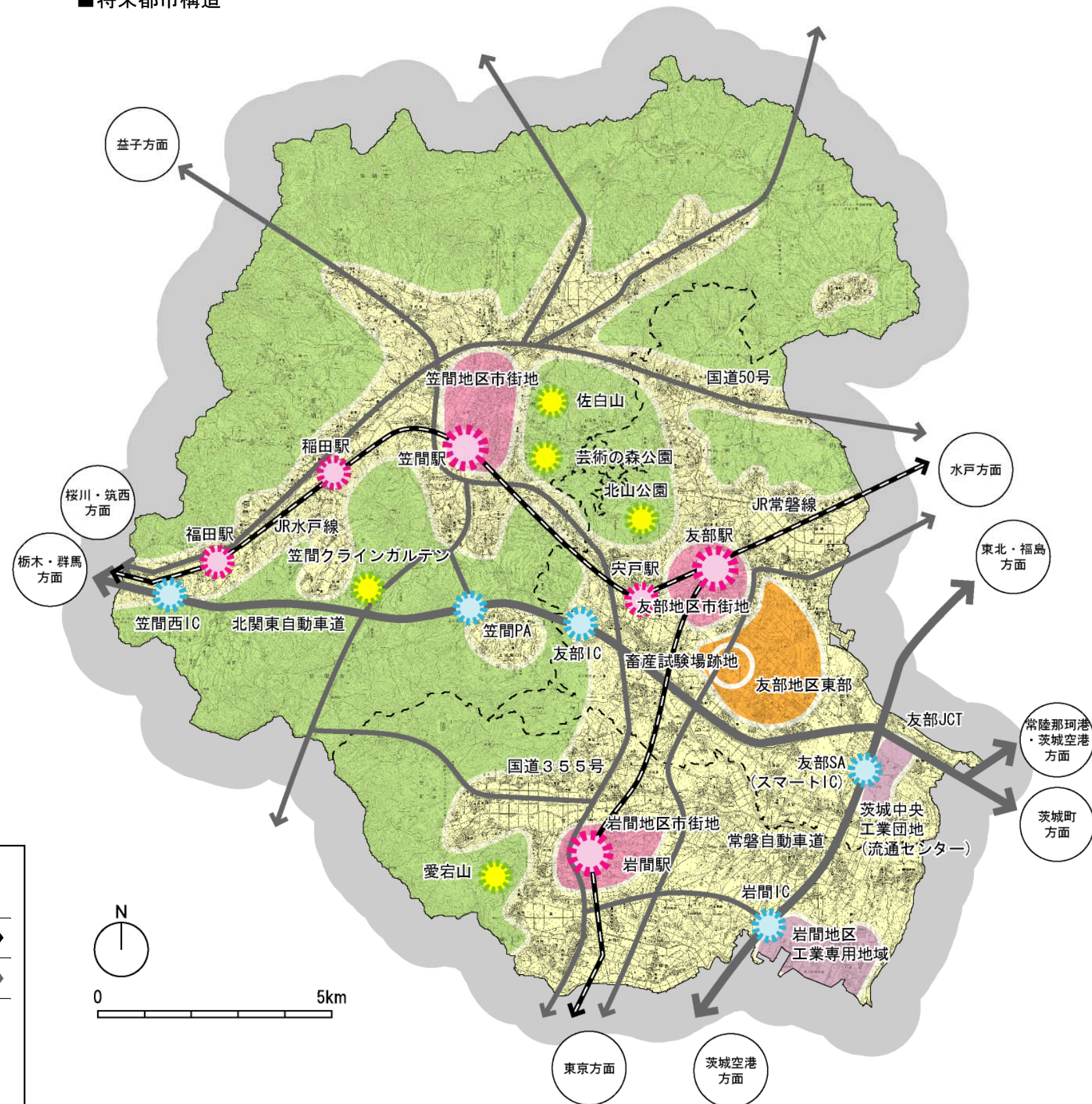
■主要拠点

交通	鉄道駅	
	高速IC、 JCT、SA、PA	
観光等		

■主要交通網

鉄道	
道路	

■将来都市構造



3.重点的に取り組む「まちづくり課題」の抽出

都市交通課題	
1)地区間の道路ネットワークの強化	5)バス交通のサービス水準の向上
2)東西方向の道路ネットワークの強化	6)鉄道交通のサービス水準の向上
3)周辺地域や市内の拠点等への道路アクセスの強化	7)交通結節機能の向上
4)道路空間の安全性・快適性向上	8)適切な交通機関利用への誘導

笠間市の交通まちづくりの基本方針	
まちづくりの基本方針	交通体系の基本方針
1)広域交流基盤を生かした新時代のまちづくり	1)新笠間市内における活発な交流を支える総合的な交通体系の構築
2)多彩な交流で飛躍する活力ある産業のまちづくり	2)「交通の要衝」という地の利を生かし、持続的な発展を支える交通体系の構築
3)共に支えあい、健やかに暮らせるまちづくり	3)生活者の視点にたった安全・安心な交通体系の構築
4)自然と共生した安全でやさしさのあるまちづくり	
5)人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり	
6)人と地域、絆を大切にした元気なまちづくり	

上位・関連計画	概要	笠間市全体の位置付け・方向性	分野別の位置付け・役割					
			まちづくり	交通	産業	観光	防災	医療
茨城県総合計画「元氣いばらき戦略プラン」(H18)	『活力あるいばらき』、『住みよいいばらき』、『人が輝くいばらき』を目標とした県のまちづくりの総合的な計画。	笠間市は水戸市や小美玉市等とともに県央ゾーンに位置づけられている。	○県都水戸を中心とした活力にあふれる安心・快適な中核都市づくり		○北関東における新たな物流・産業拠点の形成と地域特性を活かした産業の活性化	○海・川と歴史・伝統を活かした首都圏を代表する観光交流空間の形成		
茨城県総合物流計画(H19)	『首都圏における国際的な物流ゲートウェイの形成』を基本テーマとした物流に関する総合計画。	物流拠点と高速交通体系が有機的に連携した新しい物流ルートの1つである「北関東自動車道・常陸那珂港ルート」に市内の物流拠点や道路が位置づけられる。			○茨城中央工業団地(笠間地区)の需要に応じた段階的整備 ○北関東自動車道の早期整備及び国道50号等の重点整備			
県土60分構想 [茨城県広域道路整備計画(H10)]	『県内の主要な都市間を60分で連絡する道路網の整備』を基本的な考え方とした構想であり、茨城県広域道路整備計画はその実現のための将来の広域道路網を示している。	高規格幹線道路や広域道路として市内の道路が位置づけられている。		高規格幹線道路として北関東自動車道、広域道路として国道50号や国道355号が位置づけられている。				
茨城県地域防災計画(H18)	風水害、震災や原子力災害等の災害に備えた防災計画である。	県立中央病院が被災地の医療の確保、被災した地域の医療支援等を行うための災害拠点病院に指定されている。 笠間市内の主要道路が隣接県や県内の防災拠点及び緊急輸送拠点とそれらを結ぶ緊急輸送道路に指定されている。					○第1次緊急輸送道路:常磐道、北関東道、国道50号、国道355号など ○第2次緊急輸送道路:杉崎友部線、大洗友部線など ○県立中央病院が災害拠点病院(※2)に指定されている。(県内10箇所のうちのひとつ)	※1緊急輸送道路: 第1次緊急輸送道路:県庁所在地、地方中心城市及び重要港湾、空港等を連絡する道路 第2次緊急輸送道路:第1次緊急輸送道路と市区町村役場、主要な防災拠点を連絡する道路 ※2災害拠点病院:被災地の医療の確保、被災した地域の医療支援等を行うための病院
茨城県保健医療計画(H16)	県民誰もが生涯にわたり、いつでもどこでも、適切で十分な医療を受けることが可能となる保健医療体制の充実と安全で安心な保健生活環境づくりを目指した保健医療計画である。	県立中央病院が第二次救急医療機関に指定されている。※現在、県立中央病院では第三次救急医療体制を担う救命救急センターの開設を目指している。(県立中央病院HPより)						○県立中央病院が第二次救急医療機関(※)に指定されている。 ※手術・入院を必要とする重症患者の治療に当たる病院
茨城県観光振興基本計画(H18)	観光の振興を目的とした計画。	笠間市は戦略プロジェクトの1つである「歴史・文化を活かしたまちなか観光の推進」する地域に位置づけられている。				○歴史・観光資源の活用 ○ユニバーサルデザインのまちづくり推進 ○迎い入れる環境の整備		
筑波山周辺における観光支援道路整備計画(策定中)	筑波山周辺における観光振興への貢献を目的として、「観光地までのアクセス時間短縮による滞在時間増加」と「観光地内の移動時間短縮による周遊性向上」に資する道路の整備計画である。	筑波山エリアを中心とする観光エリアのひとつとして、笠間エリアが位置づけられている。 笠間エリアは歴史文化を特色とした観光エリアと位置づけられている。 笠間エリアと隣接するかたちで、石岡エリア、筑波山エリアが位置づけられている				○観光エリア内移動ルート・・・笠間市市街地内及び周辺の道路(国道50号、国道355号、国道355号笠間BP) ○観光エリア間連絡ルート・・・筑波山エリア、石岡エリア等と相互に連絡する道路(国道355号、笠間つくば線、土浦笠間線) ○観光エリアへのアクセスルート・・・高速道路ICから笠間市街地方面へアクセスする道路(国道50号、茨城岩間線、稲田友部線、南指原岩間停車場線)		
笠間都市計画区域マスタープラン	市町村界を超える広域的な観点から、都市計画の目標や主要な都市計画の決定の方針などを定める。	○笠間市街地地域では、計画的な市街化促進と自然環境と居住環境の共生を図りながら、笠間稲荷をはじめとする社寺・史跡や、笠間焼などの伝統工芸・地場産業を生かして、自然と歴史・文化の調和した都市を目指す。 ○友部市街地地域及び流通業務系市街地地域では、高速道路網等を活用して物流拠点の整備促進など産業の振興を図るとともに、友部駅周辺は広域的な玄関口として整備を図り、またその周辺住宅地では、快適で良好な居住環境の形成を図る。 ○岩間市街地地域では、愛宕山周辺の恵まれた自然環境を活用して観光レクリエーション機能を高めるとともに、居住環境の整備や既成市街地の活性化を図り、自然と調和した都市を目指す。	○笠間焼を中心に15軒ほどの店舗が並び「やきもの通り」を中心に、今後、工房、ギャラリー、販売店、案内所等が一体となった観光的な土地利用を形成			○笠間稲荷神社周辺の商業・業務地域では、笠間稲荷や美術館等の集積を活用して観光交流拠点の形成を図る		
			○JR友部駅周辺は、周辺市町村も含めた広域的な玄関口として整備	○JR友部駅の橋上化や南北自由通路などの整備を行い、交流拠点にふさわしい駅前広場を創出	○本区域の南東部に位置する長兎路地区は、常磐自動車道と北関東自動車道のジャンクションに隣接していることから、流通業務地域として位置づけ、産業の集積を図る。			
					○常磐自動車道岩間インター周辺については、高い交通利便性を生かして、工業や流通業、試験研究機関、公的施設等の誘致など、新たな産業基盤を育成	○JR 岩間駅から国道355号までの地域については、駅前広場や駅へのアクセス道路等の整備を行うとともに、愛宕山への入り口にふさわしい景観づくりを推進		
笠間市総合計画(H19)	将来像『住みよいまち訪れてよいまち笠間～みんなで創る文化交流都市～』 【将来像を実現するための6つの柱(施策の大綱)】 ①広域交流基盤を生かした新時代のまちづくり、 ②多彩な交流で飛躍する活力ある産業のまちづくり、 ③共に支えあい、健やかに暮らせるまちづくり、 ④自然と共生した安全でやさしさのあるまちづくり、 ⑤人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり、 ⑥人と地域、絆を大切にした元気なまちづくり		○広域交流を適切に受け止める都市構造の形成 ○大規模公用地(畜産試験場跡地)の有効活用 ●生活圏に応じた地区構造と都市の一体性を高める構造の形成 ●笠間地区、友部地区、岩間地区それぞれの特性を大切にし、本市固有の「街」と「里」と「森」の環境を際立たせ、新たな地域の魅力と活力を高める	○広域化・活発化する交流を市の発展につなげるための広域交通体系の構築 ○本市の骨格を形成し、活発な都市活動を支える幹線道路網の形成 ●市民ニーズに応じた利便性の高い公共交通網の形成 ○交通危険箇所の点検・改善や安全施設の適正な整備等、だれもが安全に通行できる道路交通環境づくりの推進	○新たな産業拠点(茨城中央工業団地(笠間地区)、岩間工業団地)の形成	○観光拠点及びネットワーク整備(芸術の森公園、佐白山、北山公園、愛宕山周辺整備、広域観光ネットワークの推進、笠間クラインガルテンの充実)	○災害に対する広域的な連携の強化など災害に強いまちづくりを進める。	○救急救助体制の充実
笠間市交通バリアフリー基本構想(H16)	『誰もが安心して暮らせるまちづくり』を目標として、友部駅を中心とした主要な施設を含む約1kmの周辺地区において移動の利便性や安全性の向上を目指し、交通施設のバリアフリー化に取り組んでいる。		○本市の玄関口として誰にもやさしい駅舎を目指す 駅のパリアフリー化にあわせ、南北の駅前広場、駅前駐車場の整備が進められている。 ○誰もが自由に移動できるやさしいまちを目指す 特定経路(※)として友部駅以下の施設を結ぶルートが設定されている。 ・市役所、県立中央病院、社会福祉会館、保健福祉センター					
笠間市中心市街地活性化基本計画(H15)	『魯山人になれるまち。かさま』をまちづくりのコンセプトとした笠間地区の中心市街地活性化基本計画である。笠間駅や笠間稲荷神社の周辺地域において市街地の整備改善や商業等の活性化に関する計画に取り組んでいる。					○動きやすい環境をつくる 案内板、標識の整備や利用しやすい駐車場の形成を目指す。 ○安全な歩行者環境をつくる 以下の軸が設定されている。 ・拠点連携軸:笠間駅～笠間稲荷神社 ・歩行者連携軸:笠間駅～芸術の森公園、笠間稲荷神社～佐白山		

1. 新笠間市骨格を形成し、活
発な都市活動を支える交通ネッ
トワーク

5. 友部駅周辺における市の
玄関口として相応しい都市空
間を創出する交通ネットワーク

6. 交通の要衝としての役割を
担うとともに人や環境に配慮
した交通ネットワーク

4. 交通の要衝という地の利を活かし日常生
活や産業活動における活発な広域交流を支
える交通ネットワーク

2. 文化・歴史や自然など地域資源
を生かした多様な観光を支える交
通ネットワーク

3. 市内だけでなく広域的な緊急活
動を支援し、安心な日常生活を実現
する交通ネットワーク

4.道路交通ネットワーク計画 ～道路軸とその役割～

■道路軸とその役割－ 1 / 3

道路軸と役割		道路軸を構成する路線と役割		まちづくり課題（対策方針）との対応																	具体的な取り組み イメージ			
区分	役割	路線名・区間	役割	1.新笠間市骨格を形成し、活発な都市活動を支える交通ネットワーク	2.文化・歴史や自然など地域資源を生かした多様な観光を支える交通ネットワーク				3.市内だけでなく広域的な緊急活動を支援し、安心な日常生活を実現する交通ネットワーク				4.交通の要衝という地の利を活かし日常生活や産業活動における活発な広域交流を支える交通ネットワーク				5.友部駅周辺における市の玄関口として相応しい都市空間を創出する交通ネットワーク		6.交通の要衝としての役割を担うとともに人や環境に配慮した交通ネットワーク					
				3地区の連携を強化する道路ネットワークの実現	田園地・集落地と市街地の連携を強化する道路ネットワークの実現	観光資源が集積する笠間市街地へ多様なアクセスの実現	観光資源が集積する笠間市街地へ多様なアクセスの実現	山間地に位置する観光道路ネットワークの実現	広域的観光ネットワークを形成する道路ネットワークの実現	笠間地区市街地における歩いて楽しめる観光地の実現	信頼性の高い緊急輸送道路ネットワークの実現	現間道道路ネットワークの高い地区の実現	リダンダンシーの高い地区の実現	市内外から県立中央病院へのアクセスを強化する道路ネットワークの実現	利便性の高い高速道路ネットワークの実現	市外の交通拠点へのアクセスを円滑にする道路ネットワークの実現	新たな都市拠点・産業拠点の形成を支援する道路ネットワークの実現	交流の活発な水戸方面への利便性の高い交通ネットワークの実現	友部駅へ円滑にアクセスできる道路ネットワークの実現	誰もが安心して移動できる道路ネットワークの実現		北関東地域の活発な交流を支える東西方向の広域道路ネットワークの実現	通過交通を円滑に処理し、安全で快適な市街地環境の形成する道路ネットワークの実現	産業活動を支援する安全な道路ネットワークの実現
広域交流軸	笠間市と周辺県や茨城県内の広域交通拠点を連絡し、広域的な交流を支援する	常磐自動車道	東京方面から東北方面を結び、市民生活や都市活動の広域交流や災害時の緊急輸送を支援する。また、広域的な通過交通を分担し、一般道の交通負荷を軽減する。						○				○						○				・友部スマート IC の強化	
	北関東自動車道	群馬県・栃木県・茨城県3県を結び、市民生活や都市活動の広域交流や災害時の緊急輸送を支援する。また、広域的な通過交通を分担し、一般道特に国道 50 号の交通負荷を軽減する。			○					○			○	○					○				・笠間 IC 以西の整備促進 ・笠間 PA スマート IC 化の検討	
都市間交流軸	水戸をはじめとする近隣市町と笠間市を連絡し、市町を越えた交流を支援する	国道 50 号	群馬県・栃木県や周辺都市を結び、市民生活や都市活動の広域交流や災害時の緊急輸送を支援する。観光の面では水戸・大洗方面との広域的観光ネットワークの形成を支援する。						○			○					○			○			・4 車線化の促進	
		友部中心市街地～水戸市方面	友部地区中心市街地と国道 50 号を結び、友部中心市街地と小原地区を連絡する生活動線として機能するとともに水戸市方面との活発な交流や災害時の緊急輸送を支援する。		○												○						・車線拡幅(2 車線化)	
		岩間中心市街地～水戸市方面	岩間地区中心市街地と水戸市方面を連絡し、岩間地区から水戸市方面との活発な交流を支援する。														○						・交差点改良	
		笠間地区～つくば方面	笠間地区とつくば方面を結び筑波山・石岡方面との広域的観光ネットワークの形成を支援するとともに山間地から高速道路 IC へのアクセス性を高める。						○					○									・道路新設(トンネル整備)	
		岩間地区～つくば方面	岩間地区とつくば方面を結び、岩間中心市街地と上郷・下郷地区を連絡する生活動線として機能するとともに筑波山・石岡方面との広域的観光ネットワークの形成を支援する。		○				○														・道路新設	
		笠間地区～宇都宮・益子方面	笠間地区と宇都宮・益子方面を結び、箱田地区と笠間中心市街地を連絡する生活動線として機能するとともに益子方面との広域的観光ネットワークの形成や災害時の緊急輸送を支援する。		○				○												○		—	
		笠間地区～日立・常陸太田方面	笠間地区と日立・常陸太田方面を結び、大橋地区と笠間中心市街地を連絡する生活動線として機能するとともに県北地域との交流方面との交流や災害時の緊急輸送を支援する。		○						○										○		—	
		岩間IC～茨城空港方面	岩間 IC と茨城空港方面へ続く広域農道を結び、笠間市から茨城空港へのアクセス性を高める。												○									・道路新設
		友部地区～茨城町方面①	友部地区中心市街地と茨城町を結び、市街化が進む友部地区東部と友部地区中心市街地を連絡する生活動線として機能するとともに新たな産業拠点(茨城中央工業団地(笠間地区))の形成を支援する。		○							○				○								・道路新設
		友部地区～茨城町方面②	友部地区中心市街地と茨城町を結び災害時の緊急輸送を支援する。									○												・車線拡幅(2 車線化)
		国道 355 号～岩間工業団地・茨城町方面	国道 355 号と岩間工業団地・茨城町方面を結び、新たな産業拠点(岩間工業団地)の形成を支援するとともに岩間 IC から愛宕山を結ぶ観光動線として機能する。また、災害時の緊急輸送を支援する。					○					○				○					○	—	
		岩間地区～石岡方面	岩間地区と石岡市を結び筑波山・石岡方面との広域的観光ネットワークの形成を支援する。					○																・車線拡幅(2 車線化)

■道路軸とその役割－ 2 / 3

道路軸と役割		道路軸を構成する路線と役割		まちづくり課題（対策方針）との対応																		具体的取り組み イメージ	
区分	役割	路線名・区間	役割	1.新笠間市骨格を形成し、活発な都市活動を支える交通ネットワーク	2.文化・歴史や自然など地域資源を生かした多様な観光を支える交通ネットワーク					3.市内だけでなく広域的な緊急活動を支援し、安心な日常生活を実現する交通ネットワーク				4.交通の要衝という地の利を活かし日常生活や産業活動における活発な広域交流を支える交通ネットワーク				5.友部駅周辺の玄関口として都市空間を創出する交通ネットワーク		6.交通の要衝としての役割を担うとともに人や環境に配慮した交通ネットワーク			
				3地区の連携を強化する道路ネットワークの実現	田園地・集落地と市街地の連携を強化する道路ネットワークの実現	観光資源が集積する笠間市街地へ多様なアクセスが可能な道路ネットワークの実現	山間地に位置する観光道路ネットワークの実現	広域的観光ネットワークの形成	笠間地区市街地における歩いて楽しめる観光地の実現	信頼性の高い緊急輸送道路ネットワークの実現	リダンダンシーの高い民間道路ネットワークの実現	市内外から県立中央病院へのアクセスを強化する道路ネットワークの実現	市外の交通拠点へのアクセスを円滑にする道路ネットワークの実現	新たな都市拠点・産業拠点の形成を支援する道路ネットワークの実現	利便性の高い交通ネットワークの実現	交流の活発な水戸方面への利便性の高い交通ネットワークの実現	現き友部駅へ円滑にアクセスできる道路ネットワークの実現	誰もが安心して移動できる道路ネットワークの実現	北関東地域の活発な交流を支える東西方向の広域道路ネットワークの実現	全通で快適な市街地環境の形成	産業活動を支援する安全な道路ネットワークの実現		
地区間交流軸	3地区の中心市街地を連絡し、新市の一体感を醸成する	国道 355 号	笠間市の南北骨格を形成し、3 地区の交流を支えるとともに友部 IC と笠間地区市街地を結ぶ観光動線として機能する。また、周辺都市と本市や国道 6 号、50 号、51 号の幹線道路を連絡する軸として広域的な産業活動や災害時の緊急輸送を支援する。	○		○	○				○								○			・バイパスの無い区間の 4 車線化 ・狭隘箇所の解消	
		笠間地区中心市街地～友部地区中心市街地	笠間地区上加賀田を経由し、笠間地区市街地と友部地区市街地を結ぶ路線であり、国道 355 号の緊急時における代替機能を担う。同時に上加賀田と笠間地区中心市街地との交流を支える。			○	○					○											・車道拡幅
		友部地区中心市街地～岩間地区中心市街地	国道 355 号に並行し、友部地区中心市街地と岩間地区中心市街地を結ぶ路線であり、国道 355 号の緊急時における代替機能を担う。									○											・車線拡幅(2 車線化)
地区内交流軸	友部地区 市内各地の生活・産業・交通拠点と中心市街地、拠点同士等を結ぶ	笠間地区池野辺～友部中心市街地	笠間地区池野辺と友部中心市街地を連絡する生活動線として機能する		○																	・車線拡幅(2 車線化)	
		友部地区上市原・中市原～友部中心市街地	友部中心市街地と国道 50 号を結び友部地区上市原・中市原と友部中心市街地を連絡する生活動線として機能する。また国道 50 号と県立中央病院を結び救急搬送を支援する。		○							○										—	
		友部地区穴戸～友部中心市街地	友部地区穴戸と友部中心市街地を結び、郊外と市街地の連携を支える。		○																	・車道拡幅	
		友部地区鯉淵～友部中心市街地	友部地区鯉淵と友部中心市街地を連絡する生活動線として機能する。また、災害時の緊急輸送を支援する。		○						○											—	
		友部 IC～畜産試験場跡地	北関東自動車道友部 IC と畜産試験場跡地を結び、畜産試験場跡地の高速道路 IC アクセスを高め今後の利活用を支援する。													○						・車道拡幅 ・道路新設	
		友部地区東部～茨城中央工業団地(笠間地区)	水戸岩間線と大洗友部線を結び、友部市街地・友部地区東部と茨城中央工業団地(笠間地区)の連携を高め、新たな産業拠点の形成を支援する。													○						・道路新設	
	笠間地区	笠間地区大淵・飯田～国道 355 号	笠間地区北部と国道 355 号を、国道 50 号を経由して結び、笠間市北部から国道 50 号及び友部 IC へのアクセスを高める。また、国道 50 号から北山公園を結ぶ観光動線として機能する。				○												○			・車線拡幅(2 車線化)	
		笠間地区大淵・飯田～国道 50 号	笠間地区北部の山間地域と国道 50 号を結び、大淵・飯田地区と笠間中心市街地を連絡する生活動線として機能するとともに災害時の緊急輸送を支援する。		○						○											・車線拡幅(2 車線化) ・道路新設	
		笠間中心市街地～笠間西 IC	笠間中心市街地と笠間西 IC を結び、稲田・福原地区と笠間中心市街地を連絡する生活動線として機能するとともに笠間西 IC と笠間地区中心市街地を連絡する観光動線として機能する		○	○																・道路新設	
		国道 50 号～笠間西 IC	国道 50 号と北関東自動車道笠間西 IC を結び災害時の緊急輸送を支援する。								○											—	
	国道 50 号～笠間クラインガルテン	国道 50 号と笠間クラインガルテンを連絡し、観光拠点へのアクセス性を高める。			○																・道路新設		
	友部地区上市原・中市原～笠間中心市街地	友部地区上市原・中市原と笠間中心市街地を連絡する生活動線として機能する。		○																	・車線拡幅(2 車線化)		

■道路軸とその役割－ 3 / 3

道路軸と役割			道路軸を構成する路線と役割			まちづくり課題（対策方針）との対応																		具体的な取り組み イメージ		
区分	役割	路線名・区間	役割	1. 新笠間市骨格を形成し、活動発をなえるネットワーク		2. 文化・歴史や自然など地域資源を生かした多様な観光ネットワーク					3. 市内だけでなく広域的な活動を支える日常生交通ネットワーク				4. 交通の要衝と日常生活を活動交流を業活動交流ネットワーク				5. 友部駅周辺の玄関口を創出するネットワーク			6. 交通の要衝として役割を担う環境に配慮したネットワーク				
				3地区の連携を強化する道路ネットワークの実現	田園地・集落地と市街地の連携を強化する道路ネットワークの実現	観光資源が集積する笠間市街地へ多様なアクセスが可能	山間地に位置する観光資源に円滑に到達できる道路ネットワークの実現	広域的観光ネットワークを形成する道路ネットワークの実現	笠間地区市街地における歩いて楽しめる観光地の実現	信頼性の高い緊急輸送道路ネットワークの実現	現間道路ネットワークの高い地区	市内外から県立中央病院へのアクセスを強化する道路ネットワークの実現	市外の交通拠点へのアクセスを円滑にする道路ネットワークの実現	新たな都市拠点・産業拠点の形成を支援する道路ネットワークの実現	交流の活発な水戸方面への利便性の高い交通ネットワークの実現	友部駅へ円滑にアクセスできる道路ネットワークの実現	誰もが安心して移動できる道路ネットワークの実現	北関東地域の活発な交流を支える東西方向の広域道路ネットワークの実現	通過交通を円滑に処理し、安全で快適な市街地環境の形成する道路ネットワークの実現	現産業活動を支援する安全な道路ネットワークの実現						
地区内交流軸	岩間地区	市内各地の生活・産業・交通拠点と中心市街地、拠点同士等を結ぶ	岩間中心市街地～岩間地区市野谷	岩間中心市街地と市野谷地区を連絡する生活動線として機能する。		○																—				
		岩間中心市街地～岩間地区土師・押野辺・安居	岩間中心市街地と土師・押野辺・安居地区を連絡する生活動線として機能する。		○																	—				
		岩間中心市街地～岩間工業団地	岩間中心市街地と岩間工業団地を結び、新たな産業拠点の形成を支援する。												○							・道路新設				
		岩間工業団地～茨城中央工業団地(笠間地区)	茨城中央工業団地(笠間地区)と岩間地区工業専用地域を結び、新たな産業拠点間の連携を支援する。												○					○		・道路新設				
		岩間駅～愛宕山	岩間駅から愛宕山を結ぶ観光動線として機能する。			○																・歩道整備				
市街地環状軸	中心市街地への通過交通の流入抑制により、市街地の快適性、安全性の向上を図る	国道 355 号 笠間バイパス	笠間地区の市街地を環状に取り巻き、笠間中心市街地への通過交通の流入を抑制し、市街地の快適性、安全性の向上を図る																○		国道 355 号 笠間バイパス整備					
		国道 355 号 石岡岩間バイパス	岩間地区の市街地を環状に取り巻き、岩間中心市街地への通過交通の流入を抑制し、市街地の快適性、安全性の向上を図るとともに災害時の緊急輸送を支援する。							○									○		・国道 355 号 石岡岩間バイパスの整備					
		友部中心市街地の BP 道路	友部地区の市街地を環状に取り巻き、友部中心市街地への通過交通の流入を抑制するとともに北山公園、県立中央病院、畜産試験場跡地など友部市街地周辺の拠点・施設へのアクセス性を高める				○					○		○		○					・道路新設					
市街地中心軸	中心市街地において自動車交通を円滑に処理するとともに、歩行者や自転車が安全に、安心して通行できる	笠間地区中心市街地	笠間地区中心市街地の骨格を形成するとともに笠間駅と周辺の観光資源を結ぶ観光動線として機能し、歴史と文化を活かしたまちづくりを支援する					○													・歩道整備					
		友部地区中心市街地	友部地区中心市街地の骨格を形成するとともに友部駅へのアクセスや友部駅と周辺の公共施設などを連絡し、本市の玄関口にふさわしいまちづくりを支援する。また、災害時の緊急輸送を支援する。							○					○	○					・歩道整備 ・交差点改良 ・道路新設 ・車線拡幅(2車線化)					
		岩間地区中心市街地	岩間地区中心市街地の骨格を形成するとともに岩間駅へのアクセスを高め緑と活力の共生したまちづくりを支援する。また、災害時の緊急輸送を支援する。		○		○			○				○							・道路新設 ・歩道整備					